

めでる



「メタセコイア並木 (高島市マキノ町)」

Contents

2 特集

令和7年3月18日(火)~19日(水)
春の宿泊研修 in 高島市・湖西地域方面
●訪問先の皆様からのメッセージ
●高島市
●宿泊研修に参加して(学生の声)

12

紹介コーナー

- びわ湖家庭医療フォーラム (びわふえす)
- 滋賀医科大学
- 滋賀県医師キャリアサポートセンター
- 滋賀県医師会

20

編集後記

春の宿泊研修 in 高島市・湖西地域方面

令和7年3月18日(火)～19日(水)

1日目

藤樹書院跡

地域散策では安曇川町にある中江藤樹の住居跡・講堂跡である藤樹書院跡を訪問しました。江戸の儒学者 中江藤樹の生涯や教えについてお話しいただきました。



交流会 *今津サンブリッジホテル

[第1部] 講演会・意見交換会等

「高島地域を知り地域に求められる医療職～医療職・行政職

高島市民病院 病院事業 在宅療養支援部長
訪問看護認定看護師 武内 美英子 氏



まつもと整形外科

新旭町で開業されているまつもと整形外科に訪問させていただきました。

松本先生ご自身が開業を決意されたきっかけや開業医としてのやりがい、勤務医時代のご経験や苦労された思い出等、それぞれにメリットとデメリットがあることを教えていただきました。



総合診療に携わることを前提としたキャリア形成と、そうではなく専門を持ちながらも総合診療の業務にも携わるキャリア形成の違いについて考える機会を頂けたのは非常に良いことであったと思う。
参考学生感想より



2班に分かれて研修

受診する患者さんの特徴・地域性だけでなく、地域で開業することのメリットやデメリット、スタッフ募集の苦労などクリニックならではの具体的なお話を伺えて勉強になりました。
参考学生感想より



超高齢化社会よりもさらに高齢化した地域での医療を知ることができ、大変貴重な学びを得ることができました。これから日本はさらに高齢化していくため、日本の未来の医療の在り方を考えさせられました。
参考学生感想より

高島市訪問看護ステーション

訪問看護認定看護師の武内在宅療養支援部長に施設の説明を行っていただき、利用者の方のケアだけではなく、生活の中で医療・介護をどのようにプラン立てし観察していくことが大事であることや、顔色や声などから、利用者の方がどのように感じたかを考えるなど、五感を大事にしてもらいたいと学生たちにお話しいただきました。



在宅医療において意識してみなければ気づけないような些細な変化に気づける観察力・注意力の大切さを教えていただきました。
参考学生感想より

朽木診療所

永らく滋賀県で唯一「村」であった朽木地区にある朽木診療所を訪問させていただきました。

西田所長から始めに朽木地区の特徴についてお話しいただき、この地域が抱えている超高齢化問題、移動手段の確保や医師不足など様々な課題点についてもご説明いただきました。



診療所は診察室があるだけだと思っていたが、レントゲンや胃カメラなど様々な検査ができるに驚きました。訪問診療や予防接種や検査の周知なども行っていて、病気を治すだけではなく住民の健康を守ることも地域医療の役割であることを学びました。
参考学生感想より

～里親学生支援室からのお願い～

将来、滋賀県内で働くことに興味を持っている学生(里親)に対して、県下で活躍する一先輩として、学生生活や将来の進路などの相談にのるアドバイザー(里親)を募集しています。

本事業に賛同していただける方は、里親学生支援室までメールで職業・氏名・「里親希望」と明記の上、お申し出いただきますようお願い申し上げます。

(事業の詳細はHPをご覧ください。)

お問い合わせ先 滋賀医科大学里親学生支援室 TEL: 077-548-2072

E-mail : satooya@belle.shiga-med.ac.jp

URL : <https://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>



になろう
の立場から～」

第1部では、武内在宅療養支援部長から高島市の訪問看護や地域との連携についてお話をいただきました。

第2部では、研修先でお世話になった方々や里親、室員の先生方と情報交換を行いました。

第3部では、参加学生同士で交流しました。



2日目

メタセコイア並木



高島市における医療について学ぶだけでなく、歴史や文化にも触ることができ、大変有意義でした。
（参加学生感想より）

琵琶湖周航の歌資料館



今津ウォーリズ 資料館



今津病院

仁賀事務長、佐々木循環器内科部長から今津病院の概要、前川リハビリテーション室長から回復期リハビリテーション病棟の特徴、竹本課長からは地域包括ケアシステムの必要性についてお話をいただきました。

病院のように医療器具が豊富に無い場面であっても、五感を使って全身で患者さんのバイタルサインを観察することを大切にされていて、非常に興味深い内容でした。
（参加学生感想より）

決して医療資源が潤沢とはいえない地域で、チームで医療の維持に取り組む現場からの学びは大きかったです。
（参加学生感想より）

各地域の特性や時期に合わせて生じる疾患が変化しており、それに基づき必要とされる医療が変化し、その足りない部分を埋める存在である総合診療医のニーズが高まっていることがよく分かりました。
（参加学生感想より）

地域医療の未来について長い目でどう見るか、という問題意識としっかりと向き合うべきだということです。

実状として、日本はだんだんと少子高齢化が進んでいるわけで、その中で維持できなくなる市町村も出でます、そういう場合に医師含め、医療従事者がどういった医療体制を整えていくべきかを考えたいです。
（参加学生感想より）

マキノ病院

西村病院長から病院の概要や特色についてお話をいただき、学生からの質問に対して、総合診療医は幅広く様々な疾患に対応する必要があり、本院ではマンパワーが不足している診療のサポート対応、回復期・慢性期の様々な疾患への対応が必要であるので、色々な経験をしてくださいとお話をいただきました。

家庭医療に关心を持つ地域枠学生として、県内で完結できるプログラムがほとんどないこと、滋賀家庭医療学センターは弓削を離れたあともサポートが続くことを知ったことは、私自身のキャリアを考える上で非常に参考になりました。
（参加学生感想より）

急性期から慢性期まで広く受け入れるということに驚かされました。外科から総合診療への移行した先生のお話もとても勉強になりました。
（参加学生感想より）

総合診療を軸として医療を始めたわけではなくそれぞれの専門分野から地域医療に派生されており地域医療として総合診療を行うだけでなく専門を持つということが大切だと感じました。
（参加学生感想より）

それぞれの医療機関が地域の中核医療機関として果たしている機能に違いないがある事を学びました。
（参加学生感想より）

どんな物でも、場所でも人でも「いいこと」は沢山ある。でも、その「いいこと」は目を凝らして探してあげないと、見つけられない不思議なものだと考える。高島の高齢化率が高いことをただ悲観するだけでなく、すごいことなのだとポジティブにおっしゃっていたのが印象的だった。
（参加学生感想より）

地域医療について、更に知識を深め様々な視点から考察できるようになりたいです。
（参加学生感想より）

自分の中での高島市の、特に医療面での解像度が少し上がった気がします。
（参加学生感想より）



外科から総合診療に入られた先生のお話を伺うことができた。本実習を通して様々な形の地域医療に関するキャリア形成を知り、自身の将来について深く考えることができた。
（参加学生感想より）

今回も地域の方々をはじめ沢山の医療関係者等の方々にご協力いただき、学びの多い研修となりました。ありがとうございました。



■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■宿泊研修を受け入れて

まつもと整形外科 院長 松本 道明



2006年3月から高島市新旭町、JR湖西線「新旭」駅前で整形外科診療所を開業し、来年で20年になります。高島市の面積は琵琶湖の面積よりも広く、県下最大ですが、人口はわずか4万3千人ほど。高齢化率も県下No.1です。マキノ病院に勤務していたときに、高島市内で開業を決意し計画をたてました。患者さんの8割は自家用車で通院されますので、いわゆる開業コンサルタントが提案する「診療圏」とは患者動態がまったく異なり、北は敦賀・小浜・長浜、南は大津からも車を利用して来院されます。



大学のある瀬田からは車で1時間はかかりますが、大学の隣にできた滋賀ダイハツアリーナを本拠地とするプロバスケットボールチーム、滋賀レイクスのパートナーをしており、シーズン中の週末はかなりの確率で現地応援しております。

滋賀医大に里親制度が開設されて以来、ほんのわずかですがお手伝いさせていただいております。毎年、勉強熱心な学生さんが多く、驚かされます（私が勉強熱心ではなかったのかもしれません）。田舎の町医者がいうのもおこがましいですが、学生さんには画像検査の結果や、電子カルテの画面をみていてるだけではなく、患者さんが困っておられるところに手をあててあげる人になってほしいです。初期研修を大病院で受けられると「診断をつける」ということが大切とされ、世の中病名がきっちりついた患者さんだけと思ってしまいがちですが、町医者を訪ねてこられる方の大半は病名をつけなくてもよい患者さんです。誤解を恐れずにいうと、病気の大半は老化の段階に名前をつけただけ。世の中、エビデンス至上主義になってますが、医療はアートの側面もあり、教科書に載らない治療方法も沢山あります。開業してから患者さんから教えてもらったこともたくさんあります。「患者さんのことは正しい」と思いながら患者さんと接してほしいと思います。



まつもと整形外科全景



研修の様子



■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 高島市・湖西地域から将来の医療人に伝えたいこと

高島市民病院 在宅療養支援部長
訪問看護認定看護師

武内 美英子



【高島市訪問看護ステーション概要】

前身は病院の訪問看護室から始まり、平成10年に湖西広域訪問看護ステーションとして開設し、平成17年の市町村合併により市の組織（健康福祉部）の高島市訪問看護ステーションに至ります。

高齢化が進んでいる地域ですが、早くから小児看護にも力を入れ、医療や介護保険の訪問看護に加え、委託事業として地域のニーズに応じたグループホームへの訪問や看護師派遣、医療的ケア児童生徒の通学支援など、地域の施設や教育機関との医療連携や在宅看取りの支援体制の確立にも取り組んでいます。

令和6年度、地域の医療・介護サービスの向上を含む地域包括ケア機能の充実を図るため、高島市民病院（介護老人保健施設を含む）と事業統合し在宅療養機能の整備を行いました。病院組織に「在宅療養支援部」を設け、当該部に訪問看護ステーションを設置し、看護業務に加え、専門職によるリハビリテーションも行っています。

訪問看護により、在宅療養者やご家族等を24時間365日支援し、訪問診療との連携や緊急時対応に備えた体制の構築と在宅療養後方支援病院の機能を活かし、地域の皆様に安心で安定した医療と介護サービスの提供を目指しています。



高島市訪問看護ステーション研修の様子

【将来の医療人への期待】

今回の研修で、豊かな自然、歴史、文化そして地域の人々の温かさに触れていただいたと思います。そして、医療従事者やこれから医療に従事していく者が、地域や立場が違ってもつながりをもつことで、知識や元気、勇気を得られたのではないでしょうか。

高島市だけでなく、人口減少、地域活動の担い手不足があらゆる地域で課題となっています。また、近年複雑な家族背景や複合的ケースも増え、あらゆる方向からの支援が必要となっています。これから世代をより豊かにしていくために、医療面や生活面において、医療人としての立場や力をどのように

いかすのか、常に考え方組む姿勢を期待します。

最後に、高島市は古くから撚糸業が営まれ、繊維産業が発展してきました。繊維を引き出して糸にすることを「つむぐ」といい、高島市は人と人が支え合い、誰もがわけへだてなく心と心を「つむぎ」あえる健康・福祉のまちづくりに取り組んでいます。皆様も、地域や人を愛し、愛され「つむぎあい」ながら成長されることを願っています。



交流会での筆者講演の様子

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 朽木診療所より未来の医療を担う皆さんへ

高島市民病院朽木診療所 所長

西田 早矢



皆さん、こんにちは。先日は宿泊研修で当診療所にお越し頂きありがとうございました。当日お話しした概要を以下、まとめさせて頂きます。

①朽木診療所の概要、そこで見える地域医療の姿



高島市民病院朽木診療所 外観

私が働く朽木診療所は、高島市の北西部に位置します。朽木地域は面積の9割が森林という自然豊かな場所ですが、冬は豪雪地帯となり、人口約1,500人のうち、実に半数近くが65歳以上という「超高齢化」が進む地域です。

当診療所は2014年に地元の木材を用いて新築移転し、地域の方々が住み慣れた家で安心して生活を送れるよう、24時間体制で在宅医療を支える「在宅療養支援診療所」としての役割を担っています。スタッフは医師1名、看護師2名、事務2名と決して多くはない体制ですが、外来診療・訪問診療・出張診療など、地域のニーズに合わせた柔軟な対応を心がけています。

総合診療医・家庭医として私が向き合うのは、特定の疾患ではありません。色々な疾患や悩み事を抱えつつも、日々その人らしく生きる患者さん自身です。そのため、診療所の中だけでなく、地域の介護・福祉・医療職が一堂に会する地域包括ケア会議、高齢者の健康教室や子育て世代の相談室など、多岐に関わらせて頂いています。限られた医療資源の中で、いかに多職種と連携し、地域の持つ力を支えていくか。それが挑戦であり、地域医療の醍醐味でもあります。

②未来の医療を担う皆さんへ

これから皆さんが医療の現場に出る頃、少子高齢化はさらに進み、私がいる朽木のような地域は日本中で増加するでしょう。そこで求められるのは、患者さんごとの健康観や人生観、周囲の環境も意識し、対話を通してよりよい医療・QOLを目指す姿勢です。

例えば、通院困難な帯状疱疹の患者さんを在宅で診る時、薬の処方だけでなく、本人の痛みの辛さ、家族の介護不安に耳を傾けて助言し、予防医療の大切さも伝えます。病気だけでなく「人を診る」、そしてその人が暮らす「地域を診る」姿勢が必要と考えています。

医師不足や交通手段の確保など、地域医療が抱える課題は決して小さくあり

ません。

一方で、チーム医療の連携を追求したり、医療MaaSなど新しい技術を活用したりと、チャレンジできる領域は大きく広がっています。

ぜひ、また地域医療の現場に足を運んでみてください。そこには、文章だけでは学べない、人と地域に関わる中での困難さと、大きなやりがいがあります。皆さんの若い力と新しい発想が、これから日本の医療を支え、変えていく力になると信じています。

皆さんと一緒に働く機会を楽しみに、お待ちしております。



出張診療所・住民さんが毎回そっと飾って下さる生け花



訪問診療の様子

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 今津病院より皆様へ

今津病院 事務長 仁賀 泰子

「地域里親学生支援事業」の病院訪問は当初8月の予定でしたが台風接近の影響もあったため年度末の3月19日に実施されました。

イベントもありながら湖西の病院を案内できる機会をいただきありがとうございました。

当院からは滋賀医科大学の卒業生で循環器内科部長の佐々木靖之先生（向所先生の同期の先生）から「当院の概要と医療活動状況」について紹介させていただきました。

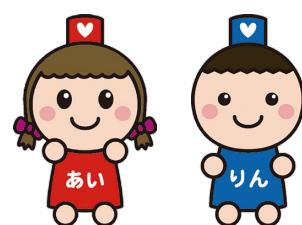
また前川リハビリテーション室長から「当院の回復期リハビリテーション病棟の特徴」、竹本地域連携室課長から「患者さんの支援と連携」について紹介させていただきました。

その後、透析センターへ移動し、玉垣技師長から「当院の透析センターの概要と役割」について説明させていただきました。



当院は、高島市民病院などで急性期治療を終えられた患者さんに対し、365日集中したリハビリテーションを提供し、医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、MSWなど多専門職種が連携して入院時から退院、自宅での療養生活まで切れ目のない医療を提供しております。また在宅医や訪問看護ステーション、ケアマネジヤーや地域リハビリ専門職などの在宅支援者との密な連携を図り住み慣れた地域での生活が継続していくことができるよう努めています。

学生のみなさんが医療専門職の一員として活躍されること、いつか私たちと共に地域医療に貢献できることを祈願しています。



『今津病院は住みなれたおうちでの生活を応援します！』

■マキノ病院より皆様へ

マキノ病院 院長 西村 彰一



■マキノ病院の紹介

当院は病床数120床（一般病床60床 医療療養型病床60床）、常勤医数9名（内科4 外科1 小児科1 整形外科2 皮膚科1）の小規模病院です。当院の存在する高島市は、滋賀県内で最大の面積規模を持つ自治体で、人口減少率、高齢化率ともに県内で一番高くなっています。広大な面積を持つ高島市ですが、市内の救急指定病院は当院と地域の中核病院である高島市民病院の2病院です。両病院は南北に分かれ存在しており、病院間の距離は約20kmあります。このため、高島市北部の急性期救急医療を支える事が当院の使命と考えています。しかし、マンパワー、設備面からすべての急性期医療を当院のみで完結するのは困難であり、高次医療機関との連携のもと高島市北部の急性期医療を支えています。

一方、回復期から慢性期の患者様は可能な限り受け入れ、高島市北部の地域包括ケアシステムを支える多機能病院を目指しています。小規模多機能居宅介護事業、デイケアセンターを整備、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリにも尽力し、医療、介護の垣根を越えて地域住民の皆様が安心できる環境の創造を行っています。尚、2023年10月よりマキノ町内に存在する準無医地区（在原地区）への巡回診療を開始し、2025年4月に滋賀県より「へき地医療拠点病院」の指定を受けました。



マキノ病院在原巡回診療所

■将来の医療人への期待

地域医療を担う医師は不足しており、この観点から将来の医療人への期待を述べたいと思います。過疎地においては、各診療科の医師を揃えることは困難で、少数の医師で地域住民の健康を守る必要があります。このため、地域医療には専門分野以外の様々な疾患に対応する総合診療を行う医師が必要です。中核病院で求められる総合診療医は総合的かつ高度な診断能力を有する事が求められますが、地域医療で求められる総合診療医には高度な医療提供は出来なくとも、広く様々な疾患に対応する事が必要です。近年では総合診療医の専門医制度もでき、地域医療に興味を持つ先生も増えてきてはいますが、まだまだ数は不足しています。

医師としての研鑽を積む中で、自分の専門分野以外の合併症や既往を持っている患者さんも多くいると思います。患者さんと向き合う中で、専門分野以外の事にも関心を持ち、全人的な対応を行う事が必要と考えます。専門性を軸に幅広い疾患に対応できる医師が増え、その中から地域医療に貢献していくだけの医師が少しでも増える事を期待しています。



マキノ病院全景

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科 第1学年

私自身は里親制度を利用しているわけではないのですが、高島地域の医療機関を見学できるということに興味を惹かれ今回初めて宿泊研修に参加しました。滋賀県民であっても朽木などを訪れる機会はあまりなく、朽木診療所は今回初めての訪問となりました。決して医療資源が潤沢とはいえない地域で、チームで医療の維持に取り組む現場からの学びは大きかったです。また、高島で働く様々な医療従事者の方や地域医療に興味を持つ学内外の学生との交流会では、素敵なお会いがたくさんありました。今回の経験を活かして今後の学びに活かしていこうと思います。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回の宿泊研修を通じて、湖西地域における医療の実態を学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。今津病院とマキノ病院の訪問を通して、それぞれの医療機関が地域の中核医療機関として果たしている機能に違いがある事を学びました。地域見学において、社会資源について学ぶ機会があり興味深かったです。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回、里親研修に参加させていただいて、今まで行ったことのない場所に行くことができたことに加え、様々な診療所の先生にお話を聞くことができてとても楽しかったです。とりわけ印象に残ったのは朽木診療所の先生のお話です。医師1人で診療所を切り盛りされているとのことでしたが、決して孤独になるわけではなく、様々な先生とお話をされてそのつながりの中で仕事をされているところで、将来似たような状況になっても安心して働くことができるのではないかと感じることができました。そのためにも、今ある人とのつながりを大切にしていきたいです。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回の実習に参加させていただいた理由として、自身に馴染みのない僻地医療を知ることや滋賀の地域について知ることが挙げられる。朽木診療所とまつもと整形外科ではそれぞれの地域や診療科で求められる総合診療の在り方について知ることができた。総合診療に携わることを前提としたキャリア形成と、そうではなく専門を持ちながらも総合診療の業務にも携わるキャリア形成の違いについて考える機会を頂けたのは非常に良いことであったと思う。また、マキノ病院での講義では外科から総合診療に入られた先生のお話を伺うことができた。本実習を通して様々な形の地域医療に関するキャリア形成を知り、自身の将来について深く考えることができた。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

高島市は今回初めて訪れるため、とてもワクワクした気持ちで研修に挑みました。1日目で特に印象に残ったのは、朽木診療所です。ログハウスのようなとても雰囲気の良い診療所で、いるだけで心が落ち着く作りに感動しました。また、自治医大の先生がどう滋賀と関わっているのかが見えてきて、とても面白かったです。加えて、夜の講演会では、精神病や障害をもつ患者さんへの対応を考えていかなければならぬと考えさせられました。2日のマキノ病院は急性期から慢性期まで広く受け入れるということに驚かされました。外科から総合診療への移行した先生のお話をとても勉強になりました。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

私は滋賀県出身ですが湖西地域にはなかなか訪れる機会がなかったためとてもよい機会になりました。特に記憶に残っているのは初日に伺った「まつもと整形外科」です。受診する患者の特徴・地域性だけでなく、地域で開業することのメリットやデメリット、スタッフ募集の苦労などクリニックならではの具体的なお話を伺えて勉強になりました。複数の医療機関だけでなく、藤樹書院やウォーリーズ資料館、琵琶湖周航の歌資料館、メタセコイア並木など、地元の歴史や文化、観光資源についても知ることができた有意義な研修でした。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

今回の湖西・高島方面の研修では、超高齢化社会よりもさらに高齢化した地域での医療を知ることができ、大変貴重な学びを得ることができました。これから日本はさらに高齢化していくため、日本の未来の医療の在り方を考えさせられました。印象的だったのは、訪問看護ステーションでのお話を中で、災害時にどのような手順で医療を求める人に届けて行くかを予め定めていたことです。また、病院見学の中で、高齢化、過疎化が進んでいく中での病院経営についても考える契機となり、良い研修となりました。このような機会を作っていただきありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

今回の里親研修では特に地域ごとの学習の影響力や、地元愛の源泉を感じることができました。藤樹書院でのお話を聞くことを通じて、この地域で活動される藤樹書院でのお話を聞くことを通じて、この地域で活動される方々の精神性や生き方の軸を知れたのではないかと思います。また、聞く機会がなかった、開業医の先生の医師として、経営者としての役割や医療との携わり方を知ることができ、今後の進路の参考になりました。

とても楽しく参加できました。ありがとうございました！
先生方との交流ができたことも、とても良かったです。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

私は今回初めて高島市を訪問し、地域医療について学ぶことが出来ました。地域医療は慢性疾患をメインに扱うものであると考えていました。しかし、高島市民病院、マキノ病院、今津病院の3病院が役割分担をしながら1つの病院として機能し、急性期の患者さんを診ることができますに驚きました。また、各地域の特性や時期に合わせて生じる疾患が変化しており、それに基づき総合診療医のニーズが高まっていることがよく分かりました。



滋賀医科大学 医学科 第2学年

この度、初めて宿泊研修に参加させていただきました。一日目は、午前中に藤樹書院跡を訪れ、午後から高島市訪問看護ステーションと朽木診療所に訪問させていただき、二日目は今津ヴォーリズ記念館やメタセコイア並木を見学し、今津病院とマキノ病院をまわりました。この研修を通して、高島市における医療について学ぶだけでなく、歴史や文化にも触れることができ、大変有意義でした。また、実際に働かれている医師や、学生同士でも交流することができ、とても貴重な機会となりました。このような充実した体験を得られたことを感謝し、また次回以降も参加し、滋賀県の医療についてもっと学びたいと思います。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

今回の湖西研修を通じて、私個人として感じたことは、地域医療の未来について長い目でどう見るか、という問題意識としっかりと向き合うべきだということです。

実状として、日本はだんだんと少子高齢化が進んでいるわけで、その中で維持できなくなる市町村も出てきますが、そういう場合に医師含め、医療従事者がどういった医療体制を整えていくべきかを考えたいです。地域医療、家庭医療が今大切なのは、同級生もほとんど理解していると思います。ですので、そこでどうすれば良いかを考える機会があつてもいいなと感じました。

少し失礼かもしれません、例えば今から30、40年後の日本を考えている人は今、病院などの重要ポジションに就いている人は少ないのかもしれません。むしろ、研修医や若い医療者は30、40年後も全然働いている訳ですから、“じぶんごと”として捉えておられる可能性も高いです。

なので、幅広い年齢層の医療者の方々または、湖北研修のように市役所の方々とディベートができるような機会があれば、それも楽しいかもしれないと思いました。

湖西研修、ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

昨年の湖北地方の研修に引き続いでの湖西地域の研修に参加させていただいたが、同じ地域医療でも地域の特徴によって医療の体制が全く異なることがよくわかった。湖西地域では、慢性期・急性期の患者の受け入れの体制が、病院ごとに役割分担がしっかりとなされており、訪問看護ステーションも含めて地域包括的に医療圈を形成していることが見てとれた。一方で、救急救命センターがないため、高度な処置を必要とする場合は大津まで1時間搬送しなければならず、急性期をみれる医師が不足している課題も明らかとなり、実際にその地域の医療をみることで大変勉強になった。将来は県内での就職を考えているため、自分も急性期をみれる若手医師として地域医療に貢献したいとより一層思うようになった。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

宿泊研修としては初めて参加させていただきましたが、二日間を通して高島の病院を巡って高齢化という問題に取り組みながら、島で地域医療を行っている医師の方々から地域医療のことについてお話を聞くことができ、みなさん総合診療を軸として医療を始めたわけではなくそれぞれの専門分野から地域医療に派生されており地域医療として総合診療を行うだけでなく専門を持つとうことが大切だと感じました。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

朽木診療所にて、自治医大卒の西田先生にお話を伺った場面が特に印象的でした。家庭医療に关心を持つ地域枠学生として、県内で完結できるプログラムがほとんどないこと、滋賀家庭医療センターは弓削を離れたあともサポートが続くことを知れたことは、私自身のキャリアを考える上で非常に参考になりました。貴重な機会を、ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

前回の湖北への宿泊研修に引き続き、今回は高島・湖西地域への研修に参加した。高島・湖西地区は滋賀の中でも高齢化率が非常に高い地域であるため、ならではの医療の特色を感じることができた。また印象的だったのは、高齢化率が高いことに対して、悲観的に捉える人が少なかったことだ。地域コミュニティで支え合っていく姿は、高島・湖西地域のみならず今後の滋賀県全体の医療にも求められるものであると感じた。また、今回の宿泊研修では、総合診療医としてのキャリアの視点が広がった。実際に総合診療に関わっておられる方にお話を聞けるのは貴重な機会であり、自身のキャリアに関しても再度考え直すきっかけとなった。唯一後悔が残る点としては、竹生島に行けなかったことだ。滋賀県に住んでいるのにまだ一度も行ったことがなかったため、今回の機会を非常に楽しみにしていたが、それだけが唯一の心残りだ。総じて毎度非常に貴重な経験をさせていただいている。次回もぜひ参加したい。

滋賀医科大学 医学科 第6学年

今回高島市・湖西地域方面での宿泊研修に参加させていただいたが、自分の中での高島市の、特に医療面での解像度が少し上がった気がします。高島市内の救急指定病院が2施設しかないことも今回初めて知りましたが、実際に訪問してみて（高島市民病院は車窓から見ただけですが）、それそれがかなり離れた場所にあることを強く実感しました。それだけで、高島市の急性期医療へのアクセスが、普段私が生活している草津を含む湖南地域や大津市南部に比べるとかなり制限されることが想像できました。私は今後滋賀県で働くので、今回の経験を生かしていきたいと思います。

他の地域に関しても、休みの日に足を運んで自分の目で地域との特性をより深く理解していきたいと思いました。



宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

今回の宿泊研修で1番印象に残ったのは朽木診療所です。診療所は診察室があるだけだと思っていたが、レントゲンや胃カメラなど様々な検査ができることに驚きました。訪問診療や予防接種や検査の周知なども行っていて、病気を治すだけではなく住民の健康を守ることも地域医療の役割であることを学びました。宿泊研修を通して、地域の特性を知ることが地域医療を行う上で非常に重要なことではないかと感じました。高島市には今回初めて行ってとても良い場所だなと思ったのでまた行ってみたいです。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

今回の宿泊研修を通して、湖西では超高齢化が進み、災害時などに住民が孤立しやすい状況にあることが分かった。また、災害時に避難することができない人に対し、訪問看護施設が情報共有したり、地域で協力したりして取り残されないような対策をしていることを学んだ。夜ご飯の交流会やその後の学生の交流会は、様々な学年の人や先生と話したり、カードゲームをしたりして楽しかった。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

私は今回初めて里親研修旅行に参加させていただきました。入学校前からこの取り組みを知っており、その体験談や感想を読んで興味を持ったことが参加のきっかけです。観光を交えながら高島市の地域医療の現場を見学させていただき、地域特有の問題点がありそれを解決するための工夫がなされていることを学びました。訪問看護ステーションでは、在宅医療において意識してみなければ気づけないような些細な変化に気付ける観察力・注意力の大切さを教えていただきました。また、学年・学科の違う学生同士や施設の方々、先生との交流の中で新たな発見・気づきもあり、これから看護・医療を学ぶ上で役立てたいと考えてあります。

滋賀県立大学 看護学科 第2学年

今回が初めての里親研修会の参加で、普段の学習だけでは得られない貴重な体験をすることができました。医療的側面だけではなく、藤樹書院やウォーリズ資料館など様々な視点から高島市を知ることができました。

高島市の地域医療では、高島市民病院などの3病院を中心として、高島市訪問看護ステーションや朽木診療所などの医療機関と情報共有をして、地域の医療ネットワークができているということが分かりました。また、高島市訪問看護ステーションでは、病院のように医療器具が豊富に無い場面であっても、五感を使って全身で患者さんのバイタルサインを観察することを大切にされていて、非常に興味深い内容でした。

今後とも里親研修会などの地域医療勉強会に参加するなどして、地域医療の考え方や、患者さんとどのように関わっているのかなどについて学びを深めていきたいです。

滋賀県立大学 人間看護学部 第2学年

どんな物でも、場所でも、人でも「いいこと」は沢山ある。でも、その「いいこと」は目を凝らして探してあげないと、見つけられない不思議なものだと考える。高島の高齢化率が高いことをただ悲観するだけでなく、すごいことなのだとポジティブにおしゃっていたのが印象的だった。マジョリティやマイノリティは人数の多寡ではなく、寧ろ、社会の中での居心地の度合いだと私は考えている。この考えに印象的だった前述のことを締めると、多くの生きるために必要な要素があるから高島に高齢になってしまって居られる方がいるのではないかと思った。決して、少子高齢化などの現実を度外視するつもりはない。しかし、高齢化率が高いことが意味していることはマイナスな面だけではないと思った。

滋賀県立大学 人間看護学部 第2学年

学校の授業や実習では地域医療というものをほとんど一面的な見方からしか知ることができません。今回の研修により高島市における医療と現状を医師の方達のお話や講演会により新たな視点で捉えることができました。将来、自分はどのような立場で医療人として地域で働きたいのか徐々に明確になり去年の引き続きの参加により自分のやりたいことについても具体的に分かるようになってきました。また高島市を訪れることが自体少なく、仮に訪れたとしても自分が選ばないような場所に案内していただき、「高島市」について深く学ぶことができました。研修を重ねる度に滋賀の全体を知ることができ面白く、非常に良い機会でした。次回は地域医療について、更に知識を深め様々な視点から考察できるようになります。



びわ湖家庭医療フォーラム(びわふえす) 2025年1月25日(土)～1月26日(日)

浅井東診療所 副所長 **北川 景都**



日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部の事業である「びわ湖家庭医療フォーラム」。医学生を対象に滋賀県にゆかりのある家庭医のロールモデルに会ってもらうことを目的に2015年から実施してきた。10周年となる2024年度は初めて学生とタイアップする形で「びわフェス」へと進化した。

私は「話すこと・聞くこと」をテーマにワークショップをした。

私が自分の「話す・聞く」に初めて注目したのは大学受験の時だった。面接準備のために自身の話している姿を録画したところ、「なんかもう少しゆっくり喋った方が印象がいいな」と思い、その時から話す速度がゆっくりになった。2回目に注目したのは医学部4年生の時。長浜で医学生が市民の健康相談に乗る「健康フェス」という企画があった。この企画に向けて、現在の師匠である松井善典先生が医学生を集めて「相談に乗るということ」をテーマにワークショップをしてくれた。「自分の声を聞け」と言われて、なるほどと思った。当時、私はバンドを組んでライブをしていて、自分のパフォーマンスを俯瞰することには慣れていた。一度発した自分の音(=声)を向こうのほうから聞き直すことで、他のメンバーの音(=声)やライブハウスの空気に合わせてチューニングする。ライブの経験と重なって、2つ目の転換点となった。それからも話し方・聞き方が変わる経験を繰り返して、現在「話すこと・聞くこと」に対する理解はあの頃よりもうんと深くなり、診察室で患者さんと毎日対話をしている。

びわフェスで時間をいただけた時、10年前のあの相談WSを思い出した。自分の転換点ともなったあの経験を、今度は提供してみたい。

当日は自分の「話す・聞く」に注目できるようなワークを準備した。滋賀県の家庭医の先生方がなんと7人もファシリテーターとして参加してくださり、新しい気づきや学びがどんどん場から生まれ賑沢な時間となった。

家庭医が10人も休日に集まり、合計4つのワークを行う。これはどこでも簡単にできることではない。運営や資金補助には日本プライマリ・ケア連合学会滋賀支部や滋賀医療人育成協力機構が関わってくれたり、小さな運営陣もイベントを成功させることができた。学生もすごい。熱意に溢れる学生たちが全国から集まってくれた。滋賀県は日本の真ん中で、新幹線も止まるし、実は学生イベントをするにはもってこいなのではないか。滋賀県の家庭医療教育のポテンシャルを感じた2日間だった。

最後になりましたが、学生スタッフの皆さん、アーバしがのスタッフさん、関わってくれた講師の皆さん、日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部事務局様、滋賀医療人育成協力機構様。新しい試みでご心配をおかけしたこと多々あったかと思いますが、おかげ様で新しい挑戦ができました。ありがとうございました。



「びわフェス」ワークショップの様子

「びわふえす」で創る地域活動への第一歩

滋賀医科大学 医学部医学科5年 大坪 瑞奈

●「ロールモデル」と出会う

2025年1月25日～26日、第12回のびわ湖家庭医療フォーラムを、「びわふえす」と称して開催させていただきました。(主催：日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部、共催：NPO法人滋賀医療人育成協力機構)

びわふえすは「病院を、医療のハブから地域のハブへ。」をテーマに2024年12月に立ち上げた学生団体です。地域を巻き込んだ共創イベントは、学生のキャリア形成に大きな影響を与えます。しかし、大学の枠を超えた交流や、社会課題に深く関わる機会は限られているのが現状です。

この滋賀県の地で、衝撃的な出会いと、経験を積める機会を創ること。これが、卒業を1年後に控えた私の目標です。今回はその第1回目のイベントとして、「ロールモデルに出会う第一歩」をテーマに開催いたしました。講師の医師は滋賀県の家庭医の5分の1以上にあたる11名、参加者は東北から四国まで全国19大学33名と、幅広い層のご参加をいただきました。

●立場を超えた対話が生まれた

当日は、医師によるワークショップ4つに加え、学生自身が企画・実施するワークショップも3つ開催し、同世代の活動に触れ、互いの熱意を感じる貴重な機会となりました。

特に、ALSのお母様を支えるヤングケアラーや、中途で弱視になった学生など、医療系の学生ではない「当事者」も参加してくれたことは、他と一線を画すよう工夫した部分です。彼らが自身の体験を語ってくれたことで、参加者は医療者と患者という立場を超え、同世代の一人の友人として「病気や障害とともに生きる」ことについて深く考える機会となりました。

医療者との対話と同時に、当事者との対話を体験することで、学生たちは自身のありたい姿を具体的にイメージし、次の行動を考えるきっかけを得ることに繋がりました。参加者からは、「医師の役割への認識が変わった」といった声が寄せられました。

●びわふえすのこれから

今回の「びわふえす」では①特定の診療科に偏らない「対話」に重きを置いたこと、②座学では得られない、社会が求めることへの気づきがあったことが成功の鍵だったと考えています。

今後は、①当事者との対話を創る、②全診療科に共通する「聴く力」や「寄り添う力」を学ぶ機会を設ける、③普段とは異なる環境を創る

これら3つの点を意識し、病院祭をはじめとする、学生・医師・地域が共創する仕組みを作り、全国へのモデル化を目指していきます。

新たな出会いが学生のキャリアを考えるきっかけとなり、活動の一歩につながる。そんな「びわふえす」への応援を今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

HP : <https://biwa-fes.studio.site/>
 メール : biwafes@gmail.com



滋賀医科大学50年の歴史・沿革

滋賀医科大学は、1974年に一県一医科大学の構想に基づき設置され、2024年10月に開学50周年を迎えました。これまでの半世紀、地域の皆さんに支えていただき、地域医療に貢献しながら、一步一步、あゆみを進めてまいりました。

1974 昭和49年	滋賀医科大学創設準備室を京都大学に設置 滋賀医科大学開学（滋賀県守山市仮校舎） 1学科目（独語）を設置	2008 平成20年	産学連携推進機構の設置
1975 昭和50年	第1回医学部医学科入学宣誓式の挙行 開学記念式典の挙行 しゃくねげ会（献体篤志家団体）の発足	2009 平成21年	神経難病研究推進機構の設置
1976 昭和51年	本校舎（大津市瀬田月輪町）の一部完成により 仮校舎から移転	2011 平成23年	男女共同参画推進室の設置
1977 昭和52年	解剖体慰靈碑の建立	2013 平成25年	アジア疫学研究センターの設置
1978 昭和53年	共同利用施設の設置 医学部附属病院の設置	2014 平成26年	地域医療教育研究拠点の設置 スキルズラボ棟の竣工
1979 昭和54年	解剖センターの設置	2015 平成27年	倫理審査室の設置
1981 昭和56年	第1回医学部医学科卒業式の挙行 大学院医学研究科の設置 第1回大学院医学研究科入学宣誓式の挙行	2016 平成28年	神経難病研究センターの設置
1985 昭和60年	第1回大学院医学研究科学位授与式の挙行	2017 平成29年	医学研究監理室の設置 研究活動統括本部の設置
1989 平成元年	分子神経生物学研究センターの設置	2018 平成30年	情報総合センターの設置 革新的医療機器・システム研究開発講座の開設 教育推進本部の設置
1990 平成2年	保健管理センターの設置	2019 平成31年 令和元年	IR室の設置 アドミッションセンターの設置 先端がん研究センターの設置 総合戦略会議の設置 医学・看護学教育センターの設置
1994 平成6年	医学部看護学科の設置 第1回医学部看護学科入学宣誓式の挙行	2020 令和2年	国際交流センターの設置
1997 平成9年	マルチメディアセンターの設置	2021 令和3年	NCD疫学研究センターの設置
1998 平成10年	第1回医学部看護学科卒業式の挙行 大学院医学系研究科看護学専攻修士課程の設置 第1回大学院医学系研究科看護学専攻修士課程 入学宣誓式の挙行	2022 令和4年	先端医学研究機構の設置 創発的研究センターの設置 分子工学研究所 機能性材料共同研究講座の開設 分子工学研究所 新材料分子設計共同研究講座の開設 再生医療開拓講座（共同研究講座）の開設 生命情報開拓講座（共同研究講座）の開設 ミスフォールドタンパク質関連疾患治療学講座（共同研究 講座）の開設 分子工学研究所 サステナブル素材開発共同研究講座の開設 Cadaver Surgical Training (CST) の実施開始
1999 平成11年	分子神経科学研究センターの設置	2023 令和5年	スポーツ・運動器科学共同研究講座（共同研究講座）の開設 先進的医療研究開発講座（共同研究講座）の開設
2000 平成12年	第1回大学院医学系研究科看護学専攻修士課程 学位授与式の挙行	2024 令和6年	大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程の設置 骨軟骨代謝・関節機能再建学講座（共同研究講座）の設置
2002 平成14年	動物生命科学研究センターの設置 MR医学総合研究センターの設置 生活習慣病予防センターの設置 医療福祉教育研究センターの設置	10月	開学50周年 開学50周年記念式典の挙行
2004 平成16年	医療人育成教育研究センターの設置 国立大学法人法の施行に伴い、 国立大学法人滋賀医科大学が設立 スキルズラボの設置	2025 令和7年	病院総合診療医養成共同研究講座の開設 創薬トランスレーショナル研究講座（共同研究講座）の開設 大学院医学系研究科にマレーシア国民大学との国際連携専攻 (ジョイントディグリープログラム) を設置
2005 平成17年	実験実習支援センターの設置 医学部看護学科助産師課程の設置		
2006 平成18年	バイオメディカル・ イノベーションセンターの設置		
2007 平成19年	滋賀医科大学保育所「あゆっこ」の設置		

開学50周年記念事業

開学50周年という記念すべき節目にあたり、滋賀医大「三方よし」のもと、これからも良き医療人を育み続けるためのキャンパス環境の整備を中心に、卒業生・県民・地域の方々にとっても本学がより良い場所・存在となるよう、さまざまな記念事業を展開しました。

学生・教職員が「憩い」、卒業生が「集い」、そして地域の方々と「つながる」場所として、中庭をリニューアルしました。



さざなみガーデン

これまで本学を支えていただいた地域の皆さまへ感謝の気持ちを直接お伝えするために、滋賀県内4箇所で市民公開講座を開催し、延べ1,300名の皆さんにご参加いただきました。

開学50周年記念市民公開講座
おうみ巡回講演会

基調講演

50年の軌跡、そして、ともに未来へ

令和6年8月3日(土)

滋賀医科大学長 上本伸二

滋賀医科大学

50



SUMSキッチン



おうみ巡回講演会



湖医会ラウンジ

休憩やコミュニケーションなど多様なシチュエーションに合わせて幅広く利用できるスペースとなるよう、また学生にとって思い出深い場所となるよう、学生食堂をリニューアルしました。

どこか懐かしく落ち着ける雰囲気で、卒業生が立ち寄りやすく、また在学生と交流が図りやすい空間となるよう、同窓会スペースを整備しました。

これからの50年も、学生にとって安心して学べる場、そして卒業してからも活躍できる基盤を構築するとともに、滋賀県の地域医療の「最後の砦」として、地域の皆さまの命を守り、社会の健康増進に貢献してまいります。

滋賀医科大学支援基金へのご寄附のお願い



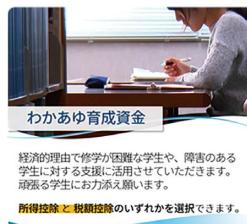
大学支援資金

大学の施設・設備の整備など、大学運営全般へ活用させていただきます。学部活動・サークルなど、課外活動団体を指定したご寄附も受け付けています。
所得控除が受けられます。



附属病院支援資金

地元医療の最後の砦として、県民・市民の命を守る大学医学部附属病院の活動全般に活用させていただきます。診療料を指定した寄附も受け付けています。
所得控除が受けられます。



わかやど育成資金

経済的理由で修学が困難な学生や、障害のある学生に対する支援に活用させていただきます。頑張る学生にお力添え願います。
所得控除と税額控除のいずれかを選択できます。



研究等支援資金

若手研究者の支援や、大学の研究に対する支援に活用させていただきます。本学の研究の発展にお力添え願います。
所得控除と税額控除のいずれかを選択できます。

ご寄附についての
詳細はこちらから

医学生・看護学生の育成、研究の推進、附属病院の充実のため、
皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしています！

★滋賀県へのふるさと納税により、本学をご支援いただくこともできます。

滋賀医科大学マスコットキャラクター
しがいたん

滋賀県では、将来県内で地域医療に貢献する意思を持った医学生に対して、修学資金等を貸与しています



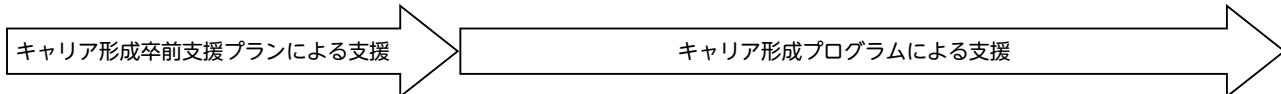
◆医学生向け貸付金



資金名	A. 滋賀県医師養成奨学金	B. 滋賀県医学生修学資金
募集人員	16名	6名
貸与対象	滋賀医科大学医学部に地域枠で入学した者	全国の医学部 入学初年度の者 (学士編入生可)
募集時期	滋賀医科大学入学試験の出願期間と同じ ※地域枠で入学した場合は本奨学金の貸与を受けることを 条件として出願いただくため。	7～8月 (予定) ※最新情報は、滋賀県医師キャリアサポートセンターHPに 掲載します。
貸与期間/金額	1年生～6年生 (6年間) 年額180万円 (総額1,080万円)	入学初年度～6年生 (最大6年間) 年額180万円 (最大1,080万円)
県内従事義務 (免除条件)	<p>次の条件を満たした場合、貸与した貸付金の返還は全額免除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内医療機関等に9年間勤務すること。 ・臨床研修を除く7年間のうち、次のいずれかで4年以上勤務すること。 <ul style="list-style-type: none"> ① 医師が不足する地域 (大津圏域、湖南圏域以外) に所在する県内の病院 ② 県内の診療所 (総合診療専門研修プログラムにおいて基幹施設・連携施設とされている診療所、在宅療養支援診療所に限る) ③ 県内の行政機関 (公衆衛生医師として勤務する場合に限る) ・キャリア形成プログラムに参加すること (次ページ参照) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県内医療機関等への従事義務の履行を一時中断し、大学院進学や国内外の医療に関する研修の参加、県外勤務を行うことも可能です。 <p>【一時中断できる上限年数】 最大10年間* + 産前産後休暇もしくは育児休暇またはこれらに相当する休暇 (無制限) ※上記10年間のうち、返還免除対象施設以外の医療機関で診療業務等に従事しているとき (研修を除く) 等の期間は最大4年までです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返還事由に該当したときは、貸与した貸付金を利息とともに一括で返還いただきます。 ・詳しくは、各制度の貸与要綱等をご確認ください。 	

(キャリアイメージ)

在学中						県内従事義務(返還免除対象施設で勤務)								
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9
180万円	180万円	180万円	180万円	180万円	180万円	臨床研修 (県内病院)		臨床研修を除く7年間のうち、次のいずれかで4年以上勤務 <ul style="list-style-type: none"> ① 医師が不足する地域 (大津圏域、湖南圏域以外) に所在する県内の病院 ② 県内の診療所 (総合診療専門研修プログラムにおいて基幹施設・連携施設とされている診療所、在宅療養支援診療所に限る) ③ 県内の行政機関 (公衆衛生医師として勤務する場合に限る) 						



◆キャリア形成卒前支援プラン（在学中）



【キャリア形成卒前支援プランとは】

地域医療へ貢献する意思を持つ医学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の向上を図り、地域医療に貢献するキャリアを描けるよう支援するプランです。

【適用対象者】

- ・滋賀県医師養成奨学金の貸与を受けている学生
- ・滋賀県医学生修学資金の貸与を受けている学生
- ・自治医科大学の学生
- ・その他キャリア形成プログラムの適用について同意した学生

【プラン内容（例）】

- ・滋賀県医師キャリアサポートセンターの専任医師（キャリアコーディネーター）による定期的な面談
- ・修学資金等の貸与を受けていた先輩医師との交流を通じて、県内従事期間中のリアルな働き方を聞くことができる「OB・OG会」
- ・希望の診療科で半日～1日程度の見学ができる「プチ・クラ（病院見学）」
- ・低学年から先取りで、スキルズラボのシミュレーターを利用した「手技体験会」
- ・一泊二日で、地域の医療機関に勤務する医師や看護師、地元住民の方と直接交流できる「宿泊研修」

◆キャリア形成プログラム（卒後）



【キャリア形成プログラムとは】

- ・以下の①、②の両立を図る制度です。
- ① 対象医師のキャリア形成を支援し、滋賀県の地域医療を支える人材を育成すること。
- ② 医師が不足する医療機関への医師を派遣することにより、県内の医師偏在を解消すること。
- ・滋賀県医師キャリアサポートセンターの専任医師（キャリアコーディネーター）と面談し、県内で希望するキャリア形成ができるよう支援します。

【適用対象者】

- ・滋賀県医師養成奨学金の貸与を受けた医師
- ・滋賀県医学生修学資金の貸与を受けた医師
- ・その他キャリア形成プログラムの適用を希望する医師

◆お問い合わせ先

滋賀県 健康医療福祉部 医療政策課 医師確保係

TEL : 077-528-3613

E-mail : ef00070@pref.shiga.lg.jp

滋賀県医師キャリアサポートセンターHPはこちら→



滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センターからのお知らせ)

キャリア形成卒前支援プランのご紹介!

キャリア形成卒前支援プランとは…?

地域医療に興味を持つ学生を対象に、地域医療に対する意識を高め、将来的に滋賀県の地域医療に貢献するキャリアを明確に描けるよう支援することを目的とし策定されたのがキャリア形成卒前支援プランです。

滋賀県や大学等が連携・協力して実施する各種取組（講演会、研修、実習等）を卒前支援プロジェクトとして設定しています。令和4年度に策定され、講義形式のイベントを中心に対応していましたが、令和6年度から令和7年度にかけて内容の見直しを行い、より医療を身近に感じ、体験できるイベントへと生まれ変わりました。

新プロジェクト①：OB・OG会

修学資金等の貸与を受けていた先輩医師との交流会で、令和6年度に初めて開催しました。県内従事期間中のリアルな働き方を聞きながら、キャリアプランやライフケアとの両立など、悩みや不安、疑問を参加者みんなで話して考えます。参加した学生からは、「不安に思っていたことについて話せる貴重な機会になった」「参加してよかったです」等の感想が届いています。

※本イベントは修学資金等の貸与を受けている学生のみが対象です



新プロジェクト②：チ・クラ（病院見学）

地域枠の2年生・3年生を対象に、希望の診療科で半日～1日程度の見学ができる滋賀医科大学医学部附属病院の見学企画です。各診療科にもご協力いただき、令和7年度に初めて実施いたしました。参加学生からは「見学した診療科に興味がわいた」「大変勉強になった」と好評で、次年度以降の継続開催を予定しています。チ・クラという愛称には、ちょっと早いクリクラ体験の意味が込められています。

※本イベントは修学資金等の貸与を受けている学生（2・3年生）のみが対象です

新プロジェクト③：手技体験会

滋賀医科大学医学部附属病院のスキルラボのシミュレーターを利用した手技体験イベントです。普段医師として活躍する先生方からの直接指導を受け、シミュレーターを用いたロボット手術体験や内視鏡・心エコーの操作体験、分娩体験など、実際に触れて学ぶことができます。毎回様々な診療科の先生を講師としてお招きする予定です。



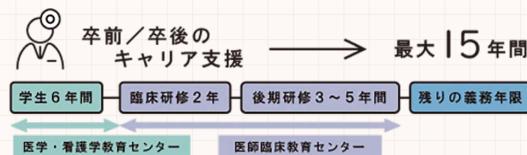
今後も滋賀県医師キャリアサポートセンターでは、キャリア形成卒前支援プランを通して、学生の皆さんに学びの機会を提供します！

滋賀県医師キャリアサポートセンターとは?

滋賀県の地域医療支援センターとして、地域医療に従事する医師の確保・定着のため、県・滋賀医科大学の共同で設立されました。

センターでは、修学資金等被貸与者の面談や、総合相談窓口等設置による若手医師等の就労支援に取り組むとともに、滋賀県医師キャリア形成プログラムとキャリア形成卒前支援プランにより、継続的なキャリア形成支援体制を強化しています。

滋賀県医師キャリアサポートセンターで支援します！



滋賀県医師キャリアサポートセンターのポスターを作成しました！



高校訪問やオープンキャンパスなどの広報の機会に配布、掲示しています。

相談窓口も設置しています。
詳しくはキャリサポートHPをご覧ください。

お問い合わせ先

滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課 病院研修係内（附属病院D棟1階）

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL: 077-548-2826 E-mail: ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp



皆さん、集まりましょう、 そして大いに活躍しましょう



滋賀県医師会理事 岡本 元純

医師会は、医師が会費を持ち寄り運営している組織です。何となく開業医（診療所医師）の集まりのような印象を持たれているかもしれません、実際、本会に入会している診療所医師（約870名）は入会者全体（約1,780名）の1/2で、他は勤務医（病院勤務医、診療所勤務医等）です。またその活動も、一般的にはあまりよく認知されていないようです。ここでは、医師会の活動を少しでも知っていただきたく、その一部を紹介します。

医師一人ひとりの力は僅かでも、集まり、団体となることにより、個々の集まりを超えた力を発揮することができます。各種予防接種、特定健診やインフルエンザワクチン接種などの感染症対策なども、多くの医師が手分けをして、分担を決めることにより、効率的に実施することができます。実際、COVID-19の対策の時も、多くのシステム・ルールを作り、役割分担を決めることにより大きな成果を得ることができました。他地域での大規模災害への支援も、自地域の診療継続担当と支援担当を分担することにより成立します。個々が集まるだけでは実現できないことが、組織化され役割分担をすることにより実現可能となるのです。

多くの医師が集まり、情報の収集を手分けして、それを皆で共有することにより、情報の収集効率が非常に高まります。卒後の研修や知識・技術の向上の効率も高まります。医師や看護師の国家試験の前には、一人で勉強していてもなかなか効率が上がらず、皆で情報を共有するでしょう。あれと同じで、もっと大規模なものです。

多くの人が集まると、効率が良くなるだけではなく、一人ではできないこともできるようになります。医療界は、医師、看護師、その他のメディカルスタッフの連携が重要であることはよく知られています。医師一人ではできないことでも、医師と看護師と栄養士やその他のメディカルスタッフが協力することで、数倍も効率が良くなります。多職種連携の重要性は良く知られています。同じ職種でも、専門や得意分野が異なれば同様の効果が得られます。

滋賀県医師会では2000年（平成12年）から6年毎に糖尿病患者の診療の実態を把握する調査を行っています。今回（令和6年実施）も会員から25,000人に迫る患者症例の報告があり、滋賀県の糖尿病診療の状態の把握と今後の方針の策定に大いに役立っていますが、糖尿病専門医と非専門医の両方が含まれており、その役割分担がわかる、日本でも類を見ない有益なデータとなっています。不均一なものが集まれば、それはそれで強みとなっているのです。

個々の考え方は少々違っても、ともかく集まって、活躍する場を皆で作って、そこで活躍する、それが医師会です。皆さん、集まりましょう、そして大いに活躍しましょう。



写真注：左の写真は、本会事業の1つ「WATCH in Shiga」でのグループワークの1風景です。県内の臨床研修病院にて研修中の1年目臨床研修医に参加していただき、「基本的医療課題と臨床医の役割」を総合テーマに「これでばっちり 明日からいかせる医療連携」というワークショップを受けていただいているところです。

入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会 費	入会金 (初年度のみ)
正会員	個人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

編集後記



特集の宿泊研修では高島市を訪問させていただきました。

寒い日でしたが、地域の歴史や文化に触れ、訪問先の皆さまの相互扶助のお話から温かい気持ちになりました。訪問先の皆さまご協力いただき本当にありがとうございました。

本年多くの方にお読みいただき感謝いたします。来年も活動の様子をお届けできればと思います。引き続きよろしくお願いいたします。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.25

発 行：2025年12月20日

編 集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

T E L : 077-548-2168

U R L : <https://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>